2024年6月の行事予定表

1	土		16	日	大月師就任式（土肥師） 歓迎昼食会
2	日	大月師　聖餐式、役員会	17	月	
3	月		18	火	
4	火		19	水	
5	水		20	木	祈祷会
6	木	祈祷会	21	金	
7	金		22	土	
8	土		23	日	大月師　　会堂掃除
9	日	大月師	24	月	
10	月		25	火	
11	火		26	水	
12	水		27	木	祈祷会
13	木	祈祷会	28	金	
14	金		29	土	
15	土		30	日	証し： ※月報印刷と発送は7月4日（木）

６月お誕生・洗礼記念日の皆様おめでとうございます。

編集後記

◇ 5 月は夏を思わせる陽気と思わず震える程の涼しさが交互に訪れた寒暖の差が大きい月となりました。体調を崩さぬようお気を付け下さい。

◇ 今月は 4 月に召された S 姉を偲んで寄せられた手記とお写真。そして Y 兄の奨励要旨をお届けしました。5 月は再び主任牧師不在という月となり不安の中、皆様のお祈りとご奉仕によって無事教会での礼拝が守られました。

◇ 6 月からは大月先生が戻られメッセージを届けてくださいます。退院されたばかりの先生をしっかり支えてより良い教会へと進んで参りましょう。

教会月報

2024年6月
No.397

岡山ナザレン教会　月報編集委員会

星野富弘さん

「私たちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを」（ローマ書 5 章 3～4 節）

星野富弘さんが 4 月 28 日に、78 年の生涯を終えて召天された。思ったこともない視点にハッとしたり、ホッとしたりする慰めと励ましに満ちた多くの詩画には、徳のような不思議な魅力がある。

中学校の若き体育教師であった星野さんが、大怪我をした絶望の淵からあのような詩画を生み出していかれた道程には、多くの愛と助けの要因があったのだろう。中でも、小さな草花や命を見つめる中で、神様が一つ一つの命をどれ程の精緻さで創り、どんなに愛し守られているのかを、自分の眼で発見していかれたことが大きかったのではないかと想う。

簡単には気付けない神様の御業のすばらしさを小さな自然の中で見つめ、知り、お互いに生かされているものとして安心して、立ち上がっていかれたのではないだろうか？

その喜びと確かな希望をみんなに伝え続けて下さった。その絵とことばが生活の中で、ふっと浮かび上がってくる。

星野さん、本当にありがとうございました。

牧師　大月 康子

ペンテコステおめでとう！

ペンテコステ礼拝　奨励
「聖霊のはたらき」

K.Y.兄

聖書　テトス 3:1-11

（写真上）
四国に転居されるＴ姉を囲んで
ペンテコステ礼拝後に記念写真を撮影。

このテトスへの手紙はパウロが信頼を寄せていた弟子テトスへ送られた手紙です。この第3章、パウロは何をテトスに伝えようとしたのでしょうか。

1節から3節。当時ここもローマによって支配されていましたので、その権力に反発してかなりのトラブルがあった状況では、クリスチャンが過激派として扱われてしまうことにもなります。それを戒めるようにパウロは、いかに良い教えに与かっても過激な言動をしては決して良い伝道は適いません。周りの方々と穏やかに交流してこそ神様の恵みを伝えることが出来る。と伝えています。

4節から7節。私たちは奉仕や教会活動によってではなく、聖霊降臨の恵みによって救われ、洗いつまり洗礼によって新たに生まれ変わった、永遠の命を受け継ぐものとされた、と述べています。6節にある『この聖霊をわたしたちに豊かに注いでくださいました』という箇所は、ギリシャ語の原文では未完了進行形の動詞となっていて、この聖霊の注ぎが今も続いているということを伝えています。

また、5節の『御自分の憐れみによって、私たちを救ってくださいました』という箇所はギリシャ語原文では完了形の動詞として書かれており、既に完全にイエス様の十字架によってその救いが遂げられたことを強調しています。

8節から11節。当時多くの教会で問題になっていたいわゆる『異端者』について注意しています。クリスチャンにとっては、ユダヤ教を強調する人たちとの論議は不毛です。

私たちは神様からの愛によって、そのひとり子イエス様の十字架によって救われ、聖霊によって生まれ変わりました。それは神様からの一方的な恵みです。この聖霊降臨日、その深い恵みが今も注がれ続けていることを覚えて感謝し歩みたいと思います。（要約：編集部）

K.S.　姉妹の想い出

土居　弘幸

私が岡山教会に集い始めた頃のＳ姉は、バリバリの岡山大学病院の看護婦（現在は看護師）さんでした。実際に働いておられる現場を見たことは無かったのですが、私が研修医の頃、同じ病棟で働いておられた強面のベテラン看護婦さんが、Ｓ姉に畏敬の念を持って接しておられたことを覚えております。

実生活でキリストの香りをはなたれておられたＳ姉は、教会でも中心的な存在でした。開けっぴろげで、大胆に信仰を持って歩まれ、多くの方のために真剣に祈られる姿、それが白神姉のイメージです。

それから、私は岡山を離れましたが、約 20 年ぶりに岡山教会に戻り、久しぶりにお会いしたＳ姉の祈りの姿は、益々磨きがかかっておられました。身体の不自由を覚えつつも礼拝を懸命に守られ、教会のため、兄弟姉妹のために心を注いで祈られる姿は、信仰の戦士そのものでした。

私たちの岡山教会は、Ｓ姉のような素晴らしい信仰者たちによって支えられてきたことを覚え、心から主に感謝しております。

故 K.S.姉　追悼特集

さる４月２２日（月）に９８年の生涯を終え、天に召されたK.S.姉を追悼して、娘の E.F.姉はじめ数名の方が寄稿してくださいました。姉妹の懐かしいお写真は差込みページをご覧ください。

ご挨拶

E.F.姉

母の前夜式、告別式にご列席下さりありがとうございました。「人生最後の証しの場」との生前の言葉に、この形式にしました。

母を知らない方が増えています。実はこの月報を始めたのが母達島田３人組です。その頃は「ぶどうの木」という名でした。夜９時頃からワープロ係のＴ姉の家で編集していました。私も表紙や手書き文章等手伝わされました。何年か続いていましたが、永松先生の手で「ナザレン岡山教会月報」として続き今に至っております。讃美歌 385 番（讃美歌 21）この友は生きた・・・。のように母の人生、嫁いだ先で救われたが波乱の人生。大病もしましたが「主には何でもできない事はない」という信仰を持って生きてきました。

そして３日の間にあっけなく死出の旅に出ました。亡くなる１時間前、ぱっと目を開けて見てくれ又閉じました。私は祈りました。母もきっとアーメンと言ったと思います。私にイエス様を教えてくださって信仰へと導いてくれた母に感謝！　シャローム

K.S.姉の思い出

K.Y. 兄

「こら！ちゃんと片付けんと！」

青年会時代、白神姉からは《愛あるお叱り》を何度と無く頂きました。私が二十歳前後の頃、青年会長の土居兄を中心に様々な催しや企画が青年会や CS を中心に行われおり、当時は 10 数名の青年が教会に集ってクリスマスやイースター、野外礼拝と教会でのイベントでは実働部隊として活動していました。その若さゆえの雑な部分を何度と無く注意して頂いたのが白神姉でした。　当時まだ現役看護師としてお勤めだった姉妹は、私たち青年会員からはまさしく「怖い」存在でした。でもそんなＳ姉妹に悪い思い出が無かったのは、姉妹のそのクリスチャンとしての姿勢が素晴らしかったからに他なりません。私たち青年会を厳しくも見守って下さった姉妹には本当に感謝です。女性会（当時婦人会）の会長としていつも一週目の礼拝後に行われていた愛餐会でのお食事でも大変青年会もお世話になったのも懐かしい思い出です。　また母の晩年、入院していた病院がご自宅から近く且つ現役時代にお勤めだった病院だったこともあり、何度もお見舞いに来て下さっていたのも思い出されます。当時、すでに心臓の状態も優れない体調だったのにも関わらず母の病室に来られて熱い励ましと真剣な祈りを捧げて下さいました。晩年体調が優れない中、自転車でご自宅から教会に通われたその信仰の強さにも本当に驚かされ、また感動をも覚えました。私にはとても真似できないことです。

Ｓ姉が天に召されて、母やＴ姉・Ｆ姉らの仲の良かった方々と再会し、再びこの教会を見守って下さっていると思います。Ｓ姉、ありがとうございました。また天国でお会いしましょう。